

## 第10回甲賀市総合計画策定審議会 会議録

---

<b>開催日時</b>	平成28年12月20日（水）18：30から20：30まで
<b>開催場所</b>	碧水ホール2階会議室
<b>出席委員</b>	新川会長、小坂副会長、赤堀委員、大原委員、谷井委員、田中伸委員（代理：中路氏）、田中直委員、松田委員、丸山委員、藪下委員 以上10名
<b>アドバイザー</b>	滋賀県総合政策部市町振興課 三井課長補佐
<b>事務局</b>	甲賀市長、平尾総合政策部長、野尻総合政策部次長、中島政策推進課長、出嶋課長補佐、北林係長、清水主査、桑山主事

<b>会議次第</b>	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 開会</li><li>2. 協議事項<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 第1次甲賀市総合計画について<ol style="list-style-type: none"><li>ア. 第1次甲賀市総合計画の成果と課題の検証について</li><li>イ. 平成27年度甲賀市総合計画の実施状況について</li></ol></li><li>(2) 第2次甲賀市総合計画について<ol style="list-style-type: none"><li>ア. 基本構想</li><li>イ. 基本計画</li></ol></li></ol></li><li>3. その他<ol style="list-style-type: none"><li>(1) 甲賀市の強み・弱みについて</li><li>(2) 策定スケジュール</li></ol></li><li>4. 閉会</li></ol>
-------------	--

<b>会議資料</b>	資料1. 第1次甲賀市総合計画 成果と課題の検証について 第1次甲賀市総合計画（基本計画） 成果と課題の検証（未定稿）
	資料2. 平成27年度甲賀市総合計画の実施状況
	資料3. 第2次甲賀市総合計画 序論、基本構想 部分（素案）
	資料4. 第2次甲賀市総合計画 基本計画 部分（草案）
	資料5. 甲賀市の強み・弱み
	資料6. 策定スケジュール（案）
	資料A. 基本構想策定に係る意見および修正事項等

## 会議内容

### 1. 開会（あいさつ）

新川会長：総合計画は大分形ができてきたが、細部を詰めていく必要がある。この審議会でお互いに意見を戦わせ、よりよい案をつくっていききたい。

岩永市長：10月31日より合併以降2代目の甲賀市長として約50日間その任にあたらせていただいている。これまで皆様方にご議論をいただいた内容と私が選挙で市民の方にお約束したことは同じ方向を向いている。選挙では、新市建設計画、総合計画後期も含めて「10万人都市をめざす」ということが記載されており、この10万人都市というものをもう一度しっかりと甲賀市の目標に据えて、まちづくりを進めさせていただきたい。現実的な人口フレームを見据えつつも、人口減少という波に抗い、この地域の宝をしっかりと磨き、甲賀市を滋賀県の南の玄関口としていきたい。市民の皆様一人ひとりがこの地域をしっかりと愛していただき、そしてこの地域の発展を信じていただきながら、オール甲賀でまちづくりを進めていきたい。ご検討よろしくお願いします。

### 2. 報告事項

#### （1）第1次甲賀市総合計画について

新川会長：事務局より説明を求める。

事務局：資料1、資料2に基づき事務局より説明。

谷井委員：資料1の目標5について、信楽小学校では小学校6年生になると各班に分かれて窯元を訪問する取組を行っている。子どもたちから、「信楽焼を自慢したい」「信楽焼を作る職人になりたい」といった意見をもらった。地場産業に誇りをもつ教育が必要である。

丸山委員：資料1の8ページ「②国際化、国際理解に結びつく取り組みの推進」について、企業は多くの外国人研修生を受け入れており、その人たちの市民生活を考えた際、行政とボランティアだけでなく、企業とも連携した取り組みが求められている。この点についても、課題に記載してはどうか。13ページ「③団体・ボランティア等の育成支援」について、外国籍の方でも地域で役に立ちたいと思っている方がいる。しかし、そのような取り組みへの窓口がわからないとの意見をいただいている。36ページ「③災害に強いシステムづくり」について、高齢者が多い地域に外国籍の方が住んでいる場合、災害等の際に外国籍の方に助けてもらう状況が生じる。いざという時に助け合える関係づくりも必要ではないか。55ページ「③勤労者福祉対策」について、スポーツ活動をしたいと思っても、体育館の利用方法等がわからずに活動できないでいる外国籍の方がいる。企業等と連携し、市民としての生活を支援する更なる仕組みが必要ではないか。71ページ「2）協働のまちづくり」について、外国籍の方がさまざまな場に委員として関わることができるようにしていくことが重要ではないか。

新川会長：子どもたちの教育にとって、やはり地域を知ることが重要である。アクティブ・ラーニングと言われることもあるが、子どもたちが自発的に学習できる機会をつくっていくことが甲賀市の将来にとって重要である。多文化共生の文化そのものをこの地域にどう根づかせるか、そのために市民、企業、行政、ボランティア団体などがどのように協力し

て進めていくかが重要とのご意見であった。

ご説明いただいたとおり、各取組について一定の成果と課題が明らかになってきている。これらを踏まえて、第2次甲賀市総合計画に活かすことが重要である。

## (2) 第2次甲賀市総合計画について

新川会長：事務局より説明を求める。

事務局：資料3、資料4、資料Aに基づき事務局より説明。

田中直委員：コンパクトシティを推進している自治体を見ると、失敗例が多いように感じる。メリットもあると思うが、コンパクトビレッジによるデメリットも多いのではないかと。先進自治体の失敗事例についてどのように分析し、この取り組みを進めようとしているのか。

事務局：甲賀市ではコンパクトシティでなく、コンパクトビレッジを目指している。資料3の21ページで記載しているように、水口やJR沿線に全てを寄せてくるのではなく、郵便局や診療所等がある地域を小学校区単位で守っていくことを目指している。

田中直委員：ビレッジごとに施設を整備すると、予算が過大になるのではないかと。また、対象から外れてしまう地域については、強制的な移住を考えているのか。

事務局：公共施設などの機能の集約化は進めていくが、強制的な移住は考えていない。小学校区単位など顔が見える関係を活かし、暮らしや文化を守るための官民連携による支援を行うことが目的である。

田中直委員：甲賀市が成功すれば、全国から人を集めることができるかもしれない。十分に研究してほしい。

新川会長：コンパクトシティの失敗例をみると、効果的・効率的な都市の中心部をつくること、あるいは郊外居住者の不便を解消することができなかったケースが多い。それぞれの暮らしの場を大切にしながら、不便な点をどのように解消していくか。そのためのネットワークづくりや小さな拠点づくりが重要となってくる。

丸山委員：資料3の9ページ「②人々の絆（きずな）」について、歴史的背景が詳しく書かれているが、大切なのは第3段落からである。この部分の記載を充実させてほしい。

新川会長：戦国時代から自治振興会までの間の記載が抜けているように感じる。

事務局：ご指摘を踏まえて追記させていただきたい。日本人だけでなく外国籍の方、障害のある方の絆もあるので、調整させていただきたい。

丸山委員：自分の思う「絆」についての理解と、ここでの記載内容との間に差異がある。

新川会長：明治以降についての内容を追記し、また、町政施行から旧町での取り組み、そして甲賀市としての試みという経過も記載してはどうか。他の地域の全体としてのまとめ、文化、人々の交流を踏まえた上で、合併後の10年間でどのような絆が生まれ、今後についてはどのように考えているかを記載できるとよい。

藪下委員：都市計画や男女共同参画など、さまざまな審議会が開かれ、そこで分野別計画が策定されている。それらが絡み合って総合計画などにつながっていく。それぞれの審議会あるいは分野別計画に市民は関わっているはずなので、それらの市民の関わりが総合計画につながっていることが伝わるような記載にしてはどうか。

事務局：都市計画審議会、男女共同参画の審議会など、さまざまな審議会がある。甲賀市には約

61の分野別計画があり、それぞれに審議会等がある。審議会の記載等については、事務局で検討させていただきたい。

赤堀委員：資料1の55ページ「4）就労支援と労働環境の向上」について、リーマン・ショックも踏まえた内容となっているが、雇用や労働を取り巻く状況は大きく変わり、現在では雇用の創出よりも労働力の確保が大きな課題となっている。失業者の職を創出することも重要だが、労働環境の改善や整備、継続就労の支援も同様に重要である。

「チャレンジプロジェクト」についても、環境を整備して、その地域で働いてくれる人を増やすことが必要ではないか。景気の変動で雇用が不安定になってきたが、今後は全体的な労働力不足が大きな課題となる。若者や子育てなどで働きたくても働けない人にとって魅力的な職場づくり等に注力していかなければ、工業団地をいくら整備しても労働力が集まらなくなってしまう。11の工業団地は、この地域の財産であるため、労働力の確保をキーワードとして打ち出すことも大切ではないか。

事務局：若者からは仕事がないと言われていたが有効求人倍率が低いわけではない。今ある、ものづくり企業の素晴らしさを若者に伝えていくことも必要である。資料4の40、41ページの就労の促進については、就労環境の整備、女性の活躍を重点的に取り組んでいきたい。また、勤労福祉の充実を市としても行っていきたいと考えている。「活躍・雇用」については、今後4年間の重点プロジェクトになると考えている。

新川会長：雇用のミスマッチが生じている状況を見据えて施策を考えなければならない。どのような労働環境、就労環境を提供できるのか。若い人たちが「働く」ことについて、どのような思いを感じているかなどを総合的に考えていく必要がある。単純なマッチングだけでは解決できない。女性が働くとすれば、職場の雰囲気や人間関係なども考えなければならない。また、ものづくりの素晴らしさを伝えていく環境づくりも重要である。

滋賀県：滋賀県全体をみても、雇用のミスマッチが生じており、県としても多様な就労の場の確保が必要である。本社機能や研究機関の誘致なども考えていく必要があるのではないかと。

谷井委員：甲賀市をPRできるものを行政はもっと作っていただきたい。

新川会長：シティセールス、ブランディングなど、セールスプロモーションが必要である。

事務局：地場産業については、担い手の育成と併せてプロモーションを進める。また、満遍なく支援するのではなく、頑張っている方を応援していくという方向性を考えている。

大原委員：資料4の6ページ「オール甲賀」については、どのように理解すればよいのか。また、「子育て・教育」、「地元経済を元気に」、「介護・福祉」の表現について、真ん中だけ「元気に」と付いていることに違和感があるため、表現を統一した方がよい。加えて、「地元経済を元気に」の【ねらい】の内容が途中で切れているため、確認をお願いしたい。7ページのチャレンジプロジェクトについて、「施策の方向性」となっているが、内容が具体的すぎるのではないかと。

事務局：市長のマニフェストを踏まえ、4年間かけて重点的に取り組む内容をチャレンジプロジェクトとして挙げている。言葉の体裁については整理させていただく。内容については、わかりやすくするために具体的内容としている。

大原委員：この「施策の方向性」の内容では、「チャレンジ」という言葉の意味から外れているの

ではないか。

事務局：ここでいう「チャレンジ」は「10万人都市にチャレンジする」という意味である。

新川会長：「オール甲賀で未来につなぐ！ チャレンジプロジェクト」で3分野が挙げられているが、この3分野がそもそも言葉の示し方として、最初に先行的、先導的なケースとして挙げられているにもかかわらず、あまり魅力的ではない表現になっているため、工夫が必要である。また、【ねらい】について、これからの甲賀市を引っ張っていくような内容がないと、オール甲賀で未来につなぐチャレンジというのにならないのではないかと。7ページについては、「施策の方向性」と表現せずに、挑戦的な内容であるとひと目でわかるように、あるいはそのようなイメージが伝わるように工夫してはどうか。しかし、現時点ではチャレンジするには数が若干多いように感じる。また、「10万人都市にチャレンジする」の内容を示すかどうかは市長のご意見も踏まえて調整してもらいたい。

田中(伸)委員(代理中路氏)：「基本構想(素案)」の人口フレームについて、赤字で「JR草津線の利便性の低下」とあるが、具体的な表現になりすぎていないか。また、人口構造の安定化を人口ピラミッドで表現すると、より具体的になるのではないかと。

新川会長：JR草津線の書き方は検討いただきたい人口ピラミッドでの表現はリアルすぎるかもしれないが、ご検討いただきたい。

松田委員：忍者のイベントを実施しているが、観光資源としての発信が十分にできていない。観光客も忍者目的ではなく、信楽を目的に来られる方が多い。今後、忍者を前面に出していくなれば、施設等の整備も必要ではないだろうか。

新川会長：信楽は世界的なブランドである。そのため、信楽、忍者などを個別で売り出すのではなく、甲賀市全体としてのセールス戦略が必要である。その際、観光協会とのパートナーシップも必要となる。観光はこれからの甲賀市の重要な活力分野となる。

小坂副会長：資料4のページ21の「里地里山」の間に、里川を入れてはどうか。また、人々の絆づくり、風土、暮らしの中のものづくりという言葉を入れると、さまざまな人々が関わっていけるという内容となる。また、観光客を選ぶ観光のまちというのもいいのではないかと。私たちが観光客を選んでいきます、という姿勢も1つの方向性として考えられる。

新川会長：生活に根ざしたものづくりもこの地域の特徴である。「甲賀市らしさ」も貴重な資源として記載していただきたい。観光地をブランディングしていき、本当に来てほしい人にだけ来てもらえればよいという観光地にできるとよい。いつどこでそれが可能となるかを踏まえて、計画をつくっていただきたい。

### 3. その他

新川会長：事務局より説明を求める。

事務局：資料5「甲賀市の強み・弱み」の内容を整理している。ご覧いただきたい。

資料6「策定スケジュール」については、当初、今年度内に総合計画を策定し、3月議会の上程を予定していたが、議会との議論を深める意図から、来年6月議会の上程というスケジュールに変更したい。2月に1回目パブリック・コメント、その後に審議会からの答申、そして、議会での議論、2回目のパブリック・コメントを実施とのスケジュールを想定している。

新川会長：資料5は甲賀市の強み・弱みをさまざまな指標での比較等を行っている。今後のご参考にしていただきたい。資料6は今後の策定スケジュールとなっている。より丁寧に議論を積み重ねたうえで総合計画をつくるため、今年度中に審議会として結論を得て答申を行うが、市ではそれを踏まえて更に議論を行い、6月の議会で議決を得る予定となっている。ご意見あるいはご質問はあるか。

— 委員一同了承 —

各委員から、あるいは事務局からご連絡いただくことはあるか。

— 特になし —

#### 4. 閉会

小坂副会長：地域づくり、まちづくりというのは本当に難しく、大変なことも多い。複雑にからみあった糸を一本一本丁寧にたぐり寄せていくことこそが総合計画づくりの作業になる。先ほどこちらで温かいお茶を入れていただき飲ませてもらったとき、この器そのものが甲賀だと思った。手にして伝わる温かさ、口にして覚えるおいしさ、飲んだあとのほっこり感、まさにこれこそが甲賀そのものだと感じた。これを飲んだときに、土山のお茶だとすぐにわかり、これを飲んだときにどのような味が皆様に伝わっていくかどうかが、今の議論の中身ではないか。こんな素晴らしい器があるということこそ、まさに甲賀の強みである。

事務局：以上をもって、第10回の審議会を閉会させていただく。本日はありがとうございました。

以上